

# ひろげよう！ 市民活動の輪

第21回

アダプトプログラム登録団体の活動を紹介します！  
環境課廃棄物・リサイクル担当 (☎ 594-5553)

～地域活動を始めてみよう～

## ワコーレ花の会

新年明けましておめでとうございます。

ワコーレ花の会はアダプトプログラムの活動を始めて2年6か月になります。会員は現在7人で、活動内容は、市道のゴミ清掃、雑草・雑木の処理、草花の植栽および手入れ・水やりです。

活動のきっかけは、ワコーレ前の市道1320号線路肩にある植栽帯の植栽が枯れていることでした。この場所に花を植えたなら綺麗になり喜んでもらえると思いました。花を植えるのには土壌が悪かったため、ワコーレの理事と共に市の許可を得て、土を入れかえ、草花の植栽をしました。現在まで約150種類の草花を植栽しました。近隣の皆様や、散歩で通る方々の心を、少しでも癒やすことができたらいいなと思います。



①植栽の草花に、水をやる井上さん。②植栽に咲き誇るヒガンバナ。③ワコーレ前の道路。



※アダプトプログラム（ぴかぴか北本おまかせプログラム）は、市民と行政とが協働して進める環境美化推進活動です。公共施設や道路などの美化活動を行う個人や団体に対し、市がごみ袋の提供等の支援を行っています。

【ワコーレ花の会】  
代表 井上 勝二



## 市民ギャラリー



「野菜」  
相川八恵子さん



「バラ」  
野辺利夫さん



「兼六園の雪吊り」  
諏訪幸男さん



「桜で一休み」  
百済道子さん

## 日曜水絵クラブ

## アズマフォトクラブ

## 北本市短歌連盟

朝焼けの神社の杜から響きくる新年太鼓に望みを託す  
 小澤 英子

海の幸 山の幸にておせち料理つくる喜びたべる楽しさ  
 大室 菊枝

出荷日の水面は錦天高く鯉師は重きをいとおしげに抱く  
 高木田 鶴子

リハビリの入院の夫帰り来よ寅年の縁起の初日にいのる  
 森川 和代

数々の世の苦しみの多けれど負けずに生きむあなたも我も  
 森 静雄

市長公室シティプロモーション・広報担当 (☎ 594-5505)

北本の魅力を発信する  
Newメンバー登場！

# 市民リポーター

市民リポーターとは…市内のイベントや地域活動等についてボランティアで取材し、レポート記事を書いてくださる人たちのことです。

令和3年12月から、新たなリポーターメンバーをお迎えしました。市民リポーターの記事は市ホームページや広報きたもとへ掲載していますのでぜひご覧ください！

リポーター記事の更新情報は、市公式LINE、Twitter等でお知らせします



▲市民リポーター投稿記事はコチラ

## ワンちゃんと楽しめる場所をご紹介します♪

こんにちは。この度北本市市民リポーターに委嘱されました、奥村鈴菜と申します。主人とワンちゃん2匹（柴犬とチワワです）と暮らしています。

コロナ禍の中、市内で過ごすことが増え、北本の素敵なお店や人と出会い、北本市の魅力をもっと知りたい！たくさんの人に知ってほしい！と思い市民リポーターに応募しました。

休日は犬たちと過ごすことが多いので、ワンちゃん連れで楽しめる場所やイベントをご紹介しますと考えています。

また、食べることも大好きなので美味しいごはん屋さんやお菓子屋さんもたくさんご紹介したいです！

北本市に住んで6年ほどとなりますが、まだまだ知らない魅力がたくさんあると思います。北本の魅力を自分の足で見つけ、取材をし、記事を市民の皆さまに読んでいただけることを、今からとてもワクワクしています。どうぞよろしくお願いいたします。

うちのワンちゃんです▶



奥村 鈴菜さん

今後はこの4人でリポーター記事を書いていきます！ご期待ください！



山北陽子さん 小宮山菜津美さん 岩倉菜々子さん 奥村鈴菜さん

今月のリポーター記事はこちら  
突撃！市民リポーター

## 奥が深い「手話」の世界！北本手話サークル

おひさしぶりです。皆さま、いかがお過ごしでしょうか。私は対面授業が増え、学校と就職活動に追われる日々を過ごしています。

さて、今回は総合福祉センターで活動している「北本手話サークル」さんにお邪魔してきました。大学入学と同時に手話の勉強を始め、ご縁あって北本市聴覚障害者協会会長の大島さんからご紹介いただき、活動に参加することができました。

活動内容は指文字（50音の手話）の復習や、単語・会話表現の練習でした。野菜やくだもの手話は初めて覚えたものも多く、まだまだ頑張らなければと思いましたが、会話表現はろうの方にチェックしていただき、表現の幅広さを改めて感じました。

手話の学習を通して、表情豊かなろうの方と会話

する楽しさはもちろん、「適切な配慮」の必要性を学びました。適切な配慮とは、何から何までサポートするのではなく、相手がどんな時にどんなサポートが必要かを考えて行動することです。レストランや病院で名前を呼ばれるとき、会議や講義のとき、生活のあらゆる場面で聴覚に頼っています。このような場面に遭遇した時、「何かできることはありますか？」と声をかけられるといいですね。

この記事を読んでくださった皆さま、聴覚障がい者に限らず、あらゆる人への適切な配慮を心掛け、あたたかい暮らしを創っていきましょう！

手話サークルの皆さんと記念撮影！ご協力ありがとうございました▶



岩倉菜々子さん